

■ 「まちづくり検討会」における意見の整理

	①住宅（住環境・周辺緑地を含む）	②センター地区	③学校跡地
A グループ （都市再生機構の地区内および近接する自治会・町内会）	<ul style="list-style-type: none"> ●住戸・住棟について <ul style="list-style-type: none"> ・竣工から相当年が経過しており、間取り等が時代に合わない部分がある。若い世代が住みたくなるような住棟もしくは住戸をモデル的に作ってみるとよい。 ・団地の数街区ごとに、空いている住戸を開放し、高齢者や子育て世代が相談できるような場所にする等住民のために活用できればよい。 ・仮に高齢者専用の賃貸住宅をつくるのであれば、家賃の減免等も行えるとよい。 ・屋上に太陽光発電など自然エネルギーを活用する設備を設けることも考えられる。 ●緑地について <ul style="list-style-type: none"> ・緑豊かな環境がこの団地の良いところである。 ・他地区につながる緑のつながり(グリーンベルト)があれば望ましい。 ●その他 <ul style="list-style-type: none"> ・団地内外を結ぶコミュニティバスがあれば、団地の住民だけでなく周辺の人々もセンター等に訪れやすくなる。 ・高齢者や子育ての相談ができる場などは必要であるが、運営を行う主体、人材の確保は課題としてある。 ・団地内には、コミュニケーションを促すような休息する場(ベンチ等)が少ないので、増やしてほしい。 ・今後は、自治会も周辺の自治会を巻き込んだ活動を行い継続していくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●店舗について <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化のため、買い物に不便している人が増えてきている。御用聞きのような仕組みがあれば、買い物に困っている人にとって便利である。 ●活動の場について <ul style="list-style-type: none"> ・子供のための映画会や団地の祭には、多くの人が集まる。屋外にステージを作ることなど、活動の場をもっと増やせば活性化する。(特に文化活動) ・センター地区の北端に子供の広場があるが、多く利用されているので、このような場をもっと増やしてもよいのではないか。 ・木曾山崎センターは予約がとりにくいほど需要がある。活動の場をさらに充実させるとよい。また、生涯学習プログラムを行うなど、人が集まるような仕掛けが必要。 ・図書館は、本来子どもや高齢者が多く集まる場所である。しかし、施設の規模が小さいことにより、対応しきれていない部分がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災主要拠点について <ul style="list-style-type: none"> ・旧緑ヶ丘小学校の隣にヘリポートがあり、地理的にも市の中心部にあることから、この場所に防災主要拠点があることはよいのではないか。また、敷地も広いことより、消防団の訓練や防災学習としての場として活用することもできる可能性がある。 ・校外学習として、テント生活の体験等、発災後の体験ができればよい。 ●子育て活動拠点について <ul style="list-style-type: none"> ・子供と高齢者が交流できるような場や、子育て相談会のような場を開くことができるような場があればよい。 ・旧忠生第5小学校はモノレール用地として一定の敷地を確保しておくことは必要であるが、実現までは緑地として活用する方法もある。 ●健康増進関連拠点について <ul style="list-style-type: none"> ・薬師池方面やセンター地区とのつながりを、散策路のようなもの(グリーンベルト等)でつなぐことにより、広範囲な活動拠点にできる可能性がある。 ●文化関連拠点・教育関連拠点について <ul style="list-style-type: none"> ・町田市には文化・芸術活動を行う場・発表する場が少ないので、イベントができる広場や小ホール、図書館等があればよい。 ●その他 <ul style="list-style-type: none"> ・調整池を活用する方法も考える必要がある。 ・団地内の通路を、より魅力的にすることは、まちの魅力につながる。 ・NPO を育てるような施設、場所が望ましい。 ・各拠点同士、緑のつながりなど、それぞれが関連付けられ、地区として相乗的な効果が生み出されるように活用していくことが重要である。 ・町田市内には映画館がないので、廃校校舎を利用して子供たちのための映画を上映できるとよい。
B グループ （東京都住宅供給公社の地区内および近接する自治会・町内会）	<ul style="list-style-type: none"> ●住戸・住棟について <ul style="list-style-type: none"> ・ペット専用住棟や空きスペースを家庭菜園にする等の方法はコミュニティ活性化の観点で良いと思う。但し実施するためには、管理ルールを定める必要がある。 ・竣工から相当年が経過しており、時代の変化に応じた改善が必要である。高齢者の場合、段差での転倒事故も想定されることから、バリアフリー化は重要である。 ・空き部屋となっている住戸を、ふれあいサロンや高齢者のためのコミュニケーションスペース、防災倉庫等住民のために活用できればよい。 ●防災・防犯について <ul style="list-style-type: none"> ・いざという時の備えとして、防災備蓄倉庫などの防災関係の設備を充実させてほしい。 ・近くの交番がなくなるなど、防犯面での不安はある。 ・若い世代の自治会の加入率の低下が特に懸念される。災害時に、どこに誰がいるかわからない状況は危険である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●店舗について <ul style="list-style-type: none"> ・現在は団地住民の生活に直接結びつくような店が少ない。 ・空き店舗を、学習塾に利用することも考えられる。 ・まちの活性化に資する活動を行うために店舗を借りる場合には、賃料を安くするなど活動の後押しをしてほしい。 ・UR,JKK のセンターを合わせて、大規模な店舗をつくることも考えられる。 ●活動の場について <ul style="list-style-type: none"> ・木曾山崎センターは需要が高く予約が取りにくい状況である。当センターのような地域の住民が活動できるスペースは重要である。 ・スーパーを日常的に利用しているので、スーパーの近くにコミュニケーションができるような場があればよい。 ・色々なイベントができる小ホールのようなものや、センター地区の広場で、若者向けの路上ライブや、子供向けの大道芸などのイベントを行えば、人を集めることができる。 ●その他 <ul style="list-style-type: none"> ・団地の花火大会は、周辺地区の住民も楽しみにしている。 ・センター地区に椅子や机を設置したところ、少し風紀を乱すような人が居座る状況も垣間見れたので、設置する際には、安心・安全かつ楽しく活用されるような工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災主要拠点について <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の医療(病院など)や消防署を含めた総合的な防災拠点が望ましい。 ●子育て活動拠点について <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターや子ども家庭支援センターのようなものや、地域の方々も集まれるような場の方がよい。 ・子育て施設に、高齢者が集えるような施設などを設置し、高齢者と子供たちが触れ合える機会をつくる工夫が必要である。 ●健康増進関連拠点について <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が健康のために活動できるような施設があればよい。 ・健康のためにも、温水プールや散歩時の休憩場所(足湯など)があればよい。 ●文化関連拠点・教育関連拠点について <ul style="list-style-type: none"> ・教育機関が来れば若い方も増え、まちが活性化するのではないか。(芸術や教育関係機関) ●その他 <ul style="list-style-type: none"> ・各拠点には、災害時に仮設住宅等を設置できる広場、空間は必要である。 ・防災用井戸のように、地域ごとに必要となる防災設備に関しては、拠点ごとにあってもよい。 ・太陽光発電などを導入し、災害時にも自家発電で電気が賄えるようにしておく必要がある。 ・民間施設が、跡地に設置されるにしても、災害時には一時的に地域に開放されるような仕組みは必要である。